

みんなのアイデアで新しい丸山公園を

ないある後藤寺応援団ワークショップ

6月30日、後藤寺商店街内の「おしごとテラス^{カテテ} katete」で「ないものねだりではなくあるもの活かし後藤寺まちづくり」のメンバーで結成した「ないある後藤寺応援団」が、丸山公園の整備についてワークショップを開催しました。

この日は、参加した18人の前で、市担当者が四季折々の花が咲く花公園を目指す整備計画などを説明しました。中学生から70歳代まで幅広い年齢層で構成されている応援団からは、各世代の視点で次々とアイデアや意見が出されました。

西田川高等学校3年の村上来連^{むらかみりおん}さんは「自動販売機が道路沿いにあるので、車が通るときが危ない。安全に買える場所に移動してほしい」と意見を発表しました。



▲中学生ならではのアイデアを発表する参加者

田川が誇る特産品を全国へ

4人目の地域おこし協力隊が着任

7月2日、地域の農産物を活用した特産品などの6次産業化を担うため、地域おこし協力隊が本市に着任しました。

4人目の隊員は筑后市出身の野見山碧^{ののみやまあおい}さん。小中学生の頃には、地元の畑を家族で借り、ひと畝^{うね}を1人で管理して野菜を育てた経験があり、高校時代にはモンゴルの砂漠で緑化運動に参加。大学時代は京都学を専攻し、京都のまちづくりや魅力の発信に意欲的に取り組んできました。

これまで学んできたことや、多彩な経験をいかしたいとの思いで、地域おこし協力隊が活躍し、地域活性化に力を入れている田川市に着任して応募したそうです。

二場^{ふたば}公人市長は「ジビエやパプリカ、オリーブなど、6次産業化に向けて取り組んでいる人たちと一緒に力を合わせ、思い切ってやってください」と激励。野見山さんは「今までの経験をいかして、農家の人や職人さんたちの思いを知ること、どうしたら商品をPRできるかなどを考えたい。また、ひとつのことにこだわらず、何事にも挑戦したい」と力強く語りました。

7月25日には、金川地区農産物加工施設「あゆみ工房」を訪問。特産品「しょうがの佃煮」の製造過程を見学し、生産者たちと交流するなど、人と接し、特産品の魅力を知ることから活動を始めています。



▲今後の抱負を語る野見山さん



▲生産秘話などを聞きながら、ラベル貼りを手伝いました



先輩隊員からのエール

地域おこし協力隊
中嶋 弘子^{なかつま ひろこ}さん
(後藤寺商店街担当)

田川の人は、みんな温かい人ばかりなので、自分の力を十分に発揮できると思います。一緒に頑張っていきましょう。